

ナスダックはバブルなのか？

ポイント① ナスダックが高値から10%調整

ナスダック総合指数(以下、ナスダック)は2020年のコロナショック以降に急反発を続けてきましたが、本年2月半ばをピークに反落に転じ、3月8日には高値から約10%調整しています。反落のきっかけとなったのは米長期金利の上昇ペースが速まったことで、昨夏に約0.5%まで低下していた10年債利回りが徐々に上昇し、年初に1%を突破して、足元では約1.6%となっています。

ポイント② バリュエーションは概ね適正

約20年前のインターネット・バブル後に業績が立ち直り始めた2004年以降（～2020年）のナスダックのバリュエーションを見てみると、PER(株価収益率)で平均31倍程度で推移してきました(図1参照)。2021年のブルームバーグ・コンセンサス予想のEPSは405ポイントとなっており、足元の約13,000ポイントのPERは32倍程度と、過去平均をやや上回る程度であり、大きな割高感はありません。

一方、業績動向ですが、図2に示すように、2021年の予想EPSは昨年央頃の約370ポイントを底に緩やかな改善傾向にあります。

ポイント③ 債券利回り上昇がどうなるか？

業績動向とバリュエーション動向に大きな問題が無い中なので、注目点は債券利回り動向に絞られます。ワクチン接種が普及し、今後は大規模景気対策も打たれることで、米国の景況感は改善傾向にあります。また、CRB指数などの川上に位置する商品市況も上昇しており、インフレ懸念が浮上しています。

ただ、消費者物価等の川下のインフレは依然として落ち着いており、債券利回り上昇が更に加速するとは考えにくく、利回りの上げ止まりと共に株価も落ち着きを取り戻すと思われます。

図1：ナスダック総合指数と業績の推移

期間：2002年1月～2021年12月(株価は3月8日まで)、月次



図2：ナスダック総合指数の2021年予想EPSの推移

期間：2019年3月～2021年2月、月次

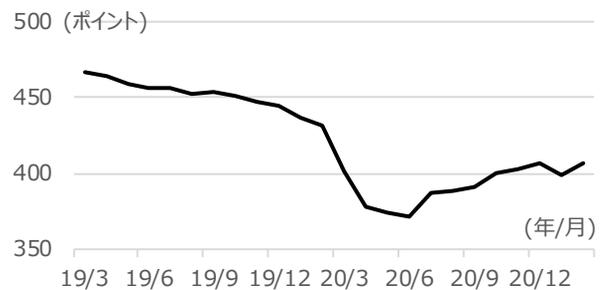


図3：米国10年債利回りの推移

期間：2002年1月～2021年3月(8日)、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。ご自身でご判断ください。